
メダバトル第二部

前田洋祐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メダバトル第一部

【Zコード】

Z5747A

【作者名】

前田洋祐

【あらすじ】

嫌々入部させられたリュウは、メダバトル部の部員に振り回される、学園バトルコメディー！

第一話・練習試合は俺とお前？？

ପାତ୍ରପାତ୍ରପାତ୍ରପାତ୍ର

朝
だ

龍らが た部屋は
一人の男が寝ている
その男の名は
リュウ

シリシリシリシリ！！

用意弁(キサツ)が鳴る。

シリシリシリシリ！！

リュウ

目覚ましを止め布団に入る

リュウ

リュウがこんなに朝早くに起きる理由は、

メダバトル部の朝練があるからだ。

遅刻をすると、自殺に追い込まれるほどの、暴言が、待っている。・・。

その頃部屋は・・・。

ゴン

「よしー。そろそろ始めるだい。」

サスケ

「あーれ? リュウちゃんは?」

ユキ

「まだ来てないみたいですね」

カイ

「遅刻か・・・・」

リン

「あんな奴! 死ねばいいわ! 10回連續遅刻よ!」

部員がストレッチをしている後ろで、シユウは掃除をしている。

シユウ

「あのーー僕は、まだ練習に参加できないんですか?」

リン

「何してんの? 次は窓拭きよ。」

シユウ

「はい・・・。」

コーコー

「おーい！みんな集まつたかあ？」

カイ

「馬鹿がまだ・・・」

コーコー

「またかあ？まあいい、お前らで先に始めなさい」

それぞれがトレーニングを始めた。一人は窓拭きだが

ガラガラガラガラ

部員の扉が開いた。

リュウ

「おはよー『ございまあーすーさあー今日も元氣にトレーニングだあー！』

部員一同

「まかすな」

リン

「アンタは何？バカ？何日連續遅刻よー死んだほうが、いいわね！」

リュウ
「ひど・・・」

サスケ

「お子さまだなあ」

カイ

「死ね・・・・・・」

ユキ

「したないわ、リュウ君だから。」

ゴン

「やる気が無い証拠だな・・・・・。」

リュウ

「てめーら・・・ふざけんな! てか何で俺が部活に入ってるの! ? 強制じゃん! ?」

ゴーチ

「もういいから、トレーニング始めなさい

ゴン

「ゴーチはリュウに甘めやろ」

リン

「わたしも、そう思つわ

サスケ

「ゆとりの教育だね

リュウ

「どうが、ゆとりだ! ? ゆとりがあるなら、辞めさせや! ?」

カイ

「練習だ・・・・・」

リュウを無視して部員はトレーニングを始めた。

リュウ

「また、このパターンかよ！あれ？」

リュウ

「お前また窓拭きか？そんなに掃除が好きか」

シユウ

「好きでやつてないですよ！僕だって練習したいですよ」

リュウ

「その様子じゃあ、一生無理だなあ！」

リュウはシユウにハツ当たりをしている。

ゴンーーー

リュウ

「いってえーーー！」

ゴーチ

「トレーニングしろーーー！」

リュウ

「はいよ・・・・・」

朝練終了

教室。

リュウ

「アーニー辭めたい」

シユウ

「リバウゼンはトレーニング参加ができるから羨ましいですよ。」

リュウ

「そーいえば…お前のせいで入部させられたんじゃん…。」

シユウ

「樂しそうにしてるじゃないですか」

リュウ

「あーもう！調子狂うわあ！」

キンコーンカーンコーン

担任

「はーい！授業だぞお！起立！着水！て水かい！！」

リュウ

「寝るか……」

教室の扉が急に開いた。

リン

「リュウ……大変だよ……」

シユウ

「寝てますけど」

リン

「起きるー・抜けー・」

リュウ

「あーもうーまたかよー・」

リン

「隣町の学校から練習試合がしたいって電話が来たのよ」

リュウ

「んな事、あとで言えよ。」

リン

「今からトレーニングよー・」

リュウ

「は？授業は？」

リン

「特別に免除よ」

リュウ

「授業なし？やつた！」

シユウ

「僕は行かなくていいですよね」

リン

「何言つてるの？あなたも試合するのよ、てゆーか練習試合は、あなた達二人よ！」

リュウ・シユウ

「え――――――？」

つづく

番外・リュウ編・過去の罪（前書き）

リュウの知り得ぬ中学時代の悲しい話

番外・リュウ編・過去の罪

教室でリュウとショウは話しおしていった。

ショウ

「リュウさんは中学時代どんな人だったんですか？」

リュウ

「俺か？俺は狂龍のリュウって言われてたなあ。」

リュウ中学一年。

番長

「てめー何もんだ！！」

一人の男が10数人の男を倒し、ボコボコにしていた。

リュウ

「あ？リュウだけど？」

番長

「なぜ？俺たちを？！」

リュウ

「暇つぶし。」

番長

「貴様ー、ふざけるなー。」

番長はリュウに殴りかかった。

リュウ

「雑魚が・・死ね」

リュウは番長の顔面に膝蹴りを食らわした。

番長

「アガ・。」

リュウ

「弱すがんだよなあ？ 暇つぶしに、ならなかつたわ。」

リュウ

「別に番長になつたくないからなー。お前つづて勝手にやればいい。」

この頃のコトウは喧嘩は暇潰しだった・・・。

女

「コトウ君、どこで行ったの？」

リュウ

「あ？ 暖暉だよ？ サキには関係ないだろ」

サキ

「でも・・・・・。」

リュウ

「暇つぶしにもならないけどな」

サキ

「気を付けてね・・。」

リュウ

「だから関係ないだろ！－！」

リュウは家に入り部屋で寝た。

次の日・・・・・。

母

「リュウ、あんた昨日サキちゃんに会わなかつた？？」

リュウ

「じらねーよ

母

「 もう？ 昨日からサキ家に帰っていないみたいなのよ。」

トウルルルル
トウルルルル
電話がなつた。

いやな予感がした、
ガチャ

リュウ
「 もしもし」

？？？

「リュウか」

リュウ
「だれだよ」

？？？

「お前の家の裏の空き地に誰か死んでたぞ？ギャハハハハハ！」

リュウ

「 おい！ なんだよ！」

電話が切れた

空き地にリュウは行つてみた。

そこには変わり果てたサキの姿があつた。リュウは亡骸を抱き寄せた。

「おー…どうしたんだよ…! 朝だぞ…! おー…起きあわせ

もちろん返事はなかつた。

リコウせりの日から喧嘩をしなくなつた。・・・。

シユウ

「ねえ！聞いてます？中学時代どんな人だったの？」

リュウ

「ん？ モテモテだつたよ・・・・、落とし物もしたけどな。へへ」

シユウ

「落とし物?なんですか?」

リュウ

「 もの な ? 」

シユウ

「教えてくださいよー！」

（心配すんなよ、喧嘩はしないからよ、お前の為じゃないからな。
・・・。）

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5747a/>

メダバトル第二部

2010年12月2日15時55分発行